

4.6 生態系

施設の存在に伴う生態系への影響を把握するために新病院の状況、環境の保全のための措置の実施状況の調査を実施した。

4.6.1 施設の存在に伴う生態系への影響

1) 調査項目

- (1) 新病院の状況（配置、高さ、形状等）
- (2) 環境の保全のための措置の実施状況

2) 調査地点・地域

調査地点・地域は、計画地内とした。

3) 調査期間

調査期間は、供用開始後、適宜とした。

4) 調査方法

調査方法は、表 4.6-1 に示すとおりである。

表 4.6-1 調査方法

調査項目	調査方法
新病院の状況	写真撮影等による現地確認及び関係資料の整理 による方法とした。
環境の保全のための措置の実施状況	

5) 調査結果

(1) 新病院の状況（配置、高さ、形状等）

対象事業の実施状況に関しては、完成した新病院の配置・高さ・形状が計画どおりとなっており（第2章 2.6 参照）、予測時の条件と変更がないことが確認された。

(2) 環境の保全のための措置の実施状況

供用後における環境の保全のための措置の実施状況は、表 4.6-2 に示すとおりである。

表 4. 6-2 供用後における環境の保全のための措置の実施状況

影 響	検討の 視点	評価書に記載した 環境の保全のための 措置	環境保全のための措置の実施状況
生息・生 育環境の 直接的改 変	改変面積 の低減、 生育環境 の創出	・「10-5 工事及び存 在・供用による植 物への影響」に示 した環境の保全の ための措置を実施 する。	・「4. 5 植物」における「4. 5. 1 5) (2) 環境の 保全のための措置の実施状況」参照。
騒音の発 生	発生源対 策	・「10-2 工事及び存 在・供用による騒 音への影響」に示 した環境の保全の ための措置を実施 する。	・「4. 2 騒音」における「4. 2. 1 5) (2) 環境の 保全のための措置の実施状況」、「4. 2. 2 5) (2) 環境の保全のための措置の実施状況」参 照。 ・「4. 5 植物」における「4. 5. 1 5) (2) 環境の 保全のための措置の実施状況」参照。

6) 予測・評価結果と事後調査結果の比較及びその考察

環境影響評価書の事後調査計画では、事後調査において、施設の存在に伴う生態系への影響は、対象事業の実施状況及び環境の保全のための措置の実施状況の確認により予測結果の妥当性を把握することとされている。

対象事業の実施状況については、完成した新病院の配置・高さ・形状も予測時の計画どおりの状況となっていること（第2章 2.6 参照）から、予測・評価結果どおり、施設の存在に伴う生態系への影響は、事業者により実行可能な範囲でできる限り低減が図られたと評価される。

また、「第4章 4.5 植物」に示すとおり、既存樹林の改変を極力抑制・低減し植物全般の生育環境の保全を図ったこと、可能な限り在来種を用いて緑化を行ったことなどから、保全すべき種及び群落の生育環境は保全されていると判断できる。そのため、動物の既存の生息環境である植生等も保全されていると判断できる。

また、計画した環境の保全のための措置はすべて実施していることから、施設の存在に伴う生態系への影響は、事業者により実行可能な範囲でできる限り低減が図られたと評価する。